

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2691 号 2015.10.27 発行

大阪) 障害者を一流パティシエに 高槻にチョコレート店 大部俊哉

朝日新聞 2015年10月27日

ガラス張りの厨房(ちゅうぼう)で菓子作りに励んでいた＝高槻市



「障害者を一流のショコラティエに」をコンセプトにした菓子店が今月、高槻市にオープンした。店内で働くパティシエは、市内にある就労支援事業所に通う障害者。プロの職人から技術指導を受け、品質の高さにもこだわる。「障害者がつくる商品への先入観を超えて、社会に認められるブランド開発を目指したい」と意気込んでいる。



阪急高槻市駅から南に1分ほど歩くと、チョコレートと焼き菓子の店「LaLa-chocolat TAKATSUKI (ララショコラ・タカツキ)」(城北町2丁目)がある。

チョコレート色のモダンな外装で、店内に入ると色とりどりの菓子为抓手りと並び、明るい雰囲気だ。

商品は、主力のチョコレートで包んだクッキーにドライフルーツやナッツをのせた「マンドイアン」など約50種類。今後、旬の果物や地元産の食材を使った商品なども売り出す計画だ。売り場の奥にある工房はガラス張りになっていて、作業の様子が見える。工房の中では、真剣な表情のパティシエたちが、一つずつ丁寧に手作りをしていた。

『赤ちゃん先生』

関西テレビ ワンダー 2015年10月21日

神戸で生まれた『赤ちゃん先生』というママたちの取り組みが今、全国に広がりつつあります。

赤ちゃんのパワーに注目した”小さな先生”の活動取材しました。

神戸市で暮らす一児のママ、二川さんにとって、自分が産んだ「赤ちゃん」の存在を一言で言うと？

【二川さん】「宝」ですね、「奇跡」。二言になっちゃいましたね…、「奇跡」で！」

そんな二川さんは、生後6カ月の娘「はなちゃん」と一緒に、ある活動に参加すること

になりました。

それが『赤ちゃん先生』です。

【二川さん】「いろんな知識を自分の中で付けられたらいいかなと思います」



『赤ちゃん先生』は、神戸のNPO法人「ママの働き方応援隊」が進めるプロジェクトで、0歳から3歳までの赤ちゃんが文字通り”先生”になり、付き添うママは”講師”となって、学校や介護施設などを訪問します。そこで赤ちゃんに触れ合ったり抱っこしたりしてもらうことで、訪問先の人に「命の大切さ」や「癒し」を感じてもらおうというのです。

そんな『赤ちゃん先生』の活動についてどう思うか、街のママたちに聞きました。

【街のママたち】「いろんな人と触れ合うのは成長していく上で大事ななと思います」

「いいですね。やっぱり二人きりになりがちなので、いろんな所で触れ合うのはいいと思います」

「新たなコミュニケーションができたりとか、刺激になったりとか…、お互いに」
社会とのつながりを求めるママさん、かなり多いんです。

そんな

この日、神戸の『赤ちゃん先生』たちは地元の高校へ…。

ちょっと覗いてみました。

女子高生たち…、赤ちゃんに触れ合って、とてもいい表情をしています。

将来、母親になる彼女たちは、こうして母性を体感したり、ママ講師たちが話す結婚するまでの体験談に耳を傾けたりしました。

【高校生】「この時間が毎回楽しみなので、(赤ちゃんと)接する機会があって良かったと思います」



「今の自分にはない感情とかを学ぶこともあります。ちょっと心を開いてくれていて嬉しいなと」

『赤ちゃん先生』、またある日は短期大学へ。

【ママ講師】「3時間に一回くらい排泄に行っていて、ちょうどここに来る前に行って来たので、開催中にたぶん行きたくなくなるかな？」

幼児教育学科で学び、将来、保育士や幼稚園の

先生をめざす学生たちが、赤ちゃんやママと1時間半にわたって交流しました。

【学生】「将来は保育士の立場になるんですけど、ここではお母さんの意見も聞けるので、将来の仕事についての時にどのようにお母さんたち、保護者の方と接していくのかというのを考えられるので、凄いい将来に役立つなと思っています」



赤ちゃんには人と人を繋げるパワーがある…、その力を信じて活動を進めてきた理事長の恵夕喜子さんです。

【NPO「ママの働き方応援隊」・恵夕喜子 理事長】「ママたちは赤ちゃんを連れて街に出ると、全く知らない人から声をかけられるんですね。「可愛いね」とか、「男の子?」とか、「いくつ?」とか。赤ちゃんが間にいる事でコミ

ニケーションが始まって人と人がつながるので、これを偶然じゃなくって「仕組み」として作ってしまおうと。地域の中にそういう仕組みがあればいろんな多世代がつながる、赤ちゃんを中心につながる」

この活動の大きな特徴は、ママたちがボランティアではなく、「仕事」として参加している点です。『赤ちゃん先生』として活動すると、一回2000円の報酬が支払われます。



【”ママ講師”のトレーナー】「シビアです。「赤ちゃん先生来て欲しいねんけど予算がないねん」とか…」

これから活動に参加するママは、訪問先での疲れない抱っこの仕方や、振る舞い方などを講座で学びます。

【二川さん】「この子の名前は二川はなです。最近できるようになったことは…」

無事講習を終えた新人ママ講師の二川さん。

『赤ちゃん先生』に参加しようと思ったのには理由がありました。

【二川さん】「保育園に行って自分が働きに行くのは、この子の成長が見られないのももったいない、どうにかしてこの子と一緒に成長したらいいなと思っていました。ボランティアは素晴らしいんですけど、でもお金じゃないけどちょびっと欲しいなと…。交通費くらい欲しいな、とか」

二川さんと娘のはなちゃん最初の訪問先は、神戸市内の高齢者介護施設です。

【二川さん】「これ（よだれかけ）って付けといて大丈夫ですか？」

若干、緊張気味の二川さんとは対照的に、6カ月のはなちゃん、物怖じする様子はありません。

デイサービスを利用するお年寄りの中には、『赤ちゃん先生』が来る日に合わせて予約を入れる人もいます。

とても人気があります。

【高齢者】「自分のひ孫と同じくらい可愛い」

「子どもは正直というけど、そのものやあ」

「希望がわきますね、若返って」

はなちゃん、初対面のお年寄りを前に泣くこともなく、無事「先生」デビューしました。

【二川さん】「いろいろな人にあやして頂いて、こちら有難いという思いで一杯です。皆さん



の笑顔が見られて、「あ、笑っている」というスタッフの方の声が聞こえた時は、はなちゃんが笑わせてあげたのかなと思ったら、何かいいことしたなと思いました」

【恵理事長】「ボランティアではなくてプロとして関わって結果につなげることでママたちのやり甲斐にもなりますし、ママたちが経済的にどんどん豊になっていくことが日本経済を元気にしていくかなと思っていますので、そのものを含めて事業化モデルにしよう」と



この日、二川さんは、以前、『赤ちゃん先生』の講師をしていた”先輩ママ”を訪ねました。

【二川さん】「(赤ちゃん先生に) 参加してなかったらまた違う道だった？」

【先輩ママ】「だったかな。想像つかない」

『赤ちゃん先生』の仕事は子どもが3歳までですが、先輩ママは親子で社会に関わったことで意識が変わり、今ではたくさんの人が交流できるカフェを運営しています。

【先輩ママ】「凄い狭い世界だったけど、ママハタ（赤ちゃん先生）に出会って世界が広がった、



そんな風になっていくからね」

3年前に神戸で生まれ、わずか10人で始まった『赤ちゃん先生』。

赤ちゃんのパワーで人と人をつなげるだけでなく、ママたちの社会進出をもめざしたその活動は、今では全国20都府県、1100人の登録スタッフを持つまでに広がっています。

うっかりミス急増？ うつ病性の「仮性認知症」かも 日本経済新聞 2015年10月26日

初期の認知症を疑われた人の中には、うつ病が原因で認知症のような症状が起こっている場合もある。このような状態は「仮性認知症」として認知症とは別に考える必要がある。今回は治療によって大幅な改善が望める「仮性認知症」について紹介する。

■治療で改善！ うつ病が原因の仮性認知症

仮性認知症とは、うつ病が原因で発症するもので、最近、テレビの健康番組などで「新型認知症」として取り上げられ注目を浴びている。「これは認知症とはまったく異なるメカニズムで起こるもので、早期発見、早期治療で劇的に改善が望めます」と話すのは、メモリークリニックお茶の水の院長で、東京医科歯科大学特任教授の朝田隆さん。

「『新型』と呼ばれたりしますが、仮性認知症は以前から知られている病気で、社会の高齢化に伴い近年増加しています。通常の認知症とは治療法が異なるので、診断では、うつ病、もしくは認知症であるか否かの判別が重要になってきています」と朝田さん。うつ病性仮性認知症は以前、たとえ放置しても本格的な認知症には移行しないとされていたが、適切な対処をしないと、加齢などに伴い本当の認知症を起こすリスクが高いことが最近になって分かってきた。つまり、うつ病性仮性認知症は認知症予備軍といえるのである。

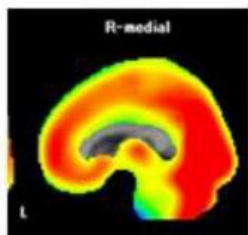
では、うつ病性仮性認知症と、認知症は、どこが違うのだろうか。

■前頭葉の機能不全が原因

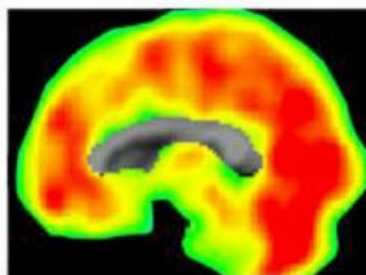
健康な人の血流量とうつ病性仮性認知症の血流量（SPECT画像）。画像は横から見た脳全体で、左上が前頭葉。赤い部分が血流量が多く、黄色い部分が少ない。うつ病性認知症は健康な人に比べ、黄色いのが分かる。朝田隆さん提供

「脳のメカニズムでいえば、認知症で最も多いアルツハイマー型認知症は、海馬の機能

健常者



うつ病性仮性認知症



不全で起こりますが、うつ病が原因の仮性認知症は前頭葉の機能不全で起こります」と朝田さん。

もともと前頭葉は加齢の影響を受けやすく、前頭葉の血流量は20代に比べ80代では20%低下するといわれている。うつ病性仮性認知症になるとさらに前頭葉への血流量が低下する。脳の血流量を調べるSPECT画像検査で調べると、その差は歴然としている。

前頭葉は注意力、集中力、段取りなどをつかさどる部位なので、うつ病性仮性認知症になると、日常生活の中で、うっかりミスが多くなる。

例えば、妻から「お父さん、私出かけるから、ここに書いてある5つの物を買っておいてね」と頼まれた夫が、「ああ、分かった、分かった」と返事をしたにもかかわらず、妻が帰宅したときにはまだ買い物に行っておらず、「お父さん、忘れたの?」と言われて初めて、「ああそういえば…」と思い出すようなミスがそれ。そもそも人の話を注意して聞いていないなど、注意力が散漫になっているためうっかり忘れてしまうというタイプの物忘れが、このうつ病性仮性認知症の特徴だ。

また、うつ病により自律神経が乱れるため、頭痛、食欲不振、睡眠障害などの身体症状を引き起こすのも、この仮性認知症の特徴である。

■ 2項目以上あれば要注意！ うつ病性仮性認知症チェック

前ページで説明した「あれ、何するんだったっけ?」というタイプの物忘れに加え、下記の項目が2つ以上当てはまる場合は、うつ病性仮性認知症の可能性が高いという。

1. 便秘が多い
2. 肩こりや頭痛に悩まされている
3. 以前に比べ食欲が落ち、体重が減ってきた
4. 夜中に目が覚めてしまう
5. 以前より疲れやすくなった

うつ病性仮性認知症の原因は、ずばり加齢とストレスである。先に述べたように、前頭葉の血流量は加齢とともに低下する。そのため、注意力、集中力が低下して、若い頃と同じように仕事ができなくなる。これが第一のストレスとなる。

また、加齢に伴う生活環境の変化、たとえば、定年退職や、配偶者や近親者の死なども大きなストレスとなる。

こうしたストレスにさらされ続けることにより、前頭葉の血流量がさらに低下して、前頭葉の神経伝達物質が減少。自律神経の働きが悪くなり、便秘、頭痛、肩こり、食欲不振、倦怠（けんたい）感、睡眠障害など全身にさまざまな症状が起こる。

人によっては、こうした症状から、自分はがんなどの大病になったのではないかと、不安になり、それがさらにストレスとなって、前頭葉の血流量を低下させる。これら一連のストレスのスパイラルがうつ病性仮性認知症を悪化させる原因となるのである。よって、うつ病性仮性認知症にならないためにはストレスをためないことが最も重要である。

(伊藤左知子)



Profile 朝田隆 (あさだたかし)

メモリークリニックお茶の水院長、東京医科歯科大学特任教授

1982年、東京医科歯科大学医学部卒業。同大学神経科精神科勤務、英オックスフォード大学老年科留学、山梨医科大学精神神経科勤務、国立精神神経センター武蔵病院リハビリテーション部長などを経て、2001年より筑波大学精神医学教授。14年より東京医科歯科大学特任教授。15年4月より医療法人社団創知会メモリークリニックお茶の水院長、筑波大学名誉教授。専門分野はアルツハイマー病の臨床一般、研究面では認知症の早期診断法・予防。

実名入りで「入れ歯もはめられない」介護の様子をブログに…ヘルパーらに賠償命令

読売新聞 2015年10月26日

訪問介護した男性の様子をブログに書き込みプライバシーを侵害したなどとして、ホー

ムヘルパーの女性と介護事業者が9月、東京地裁から計280万円の損害賠償を命じられた。

判決は「事業者はヘルパーを十分に指導監督する必要がある」と指摘し、プライバシー保護が徹底されていない業界の現状に警鐘を鳴らした。業界団体は10月から教本を改訂したが、個人情報情報を漏らしたヘルパーに対する罰則はなく、専門家からは対策強化を求める声も出ている。

女性は2013年5～6月、東京都内の介護事業者から、芸能関係の仕事で社会的名声を得ていた90歳代の男性宅に計3回派遣され、その後、介護の様子を男性の実名入りでログに書き込んだ。(ハブラシをお持たせすると、どうすればいいのかわからない様子) (入れ歯もご自身ではめることができない)

さらに女性は、男性の経歴にも触れ、こうも記していた。
<かつての威厳、栄光も今や形無し>

訴訟で女性は「プライバシー侵害や名誉毀損の意図はなかった」と主張。事業者も「勤務中の書き込みでなく、阻止するのは困難だ」と訴えた。



「さあ岩手へ」心待ち わかやま大会が閉幕

岩手日報 2015年10月27日



「来年は岩手へ来てください」。閉会式で和歌山県選手団にハイタッチで見送られ退場する本県選手団=26日、和歌山市・紀三井寺陸上競技場

【和歌山県で本社取材班】「来年また岩手で会いましょう」一。各県選手団が口々に来年の岩手大会での再会を誓い、和歌山県での全国障害者スポーツ大会が26日幕を閉じた。本県選手団や関係者は3日間の感動や発見を振り返り、他県からのエールも受けて、地元開催に向けての意気込みを新たにした。

卓球のサウンドテーブルテニスに初出場した本県代表の田村菊代さん(64)は「感激した。目が見えずサポート面が不安だったが、孫のようなボランティアの子がずっとついてくれて、頑張ろうという勇気もらった」と涙。

来年の岩手大会に今回と同じメンバーで臨む本県のフットベースボールの主将、合野口(あいのぐち)立身(たつみ)さん(31)は、「大会中ずっとメンバーと生活し、親睦はより深まった。試合は力を出し切れなかったが来年は地元で優勝を狙う」と闘志を燃やす。

他県との交流も深まった。鳥取県の陸上選手、森卓也さん(41)は「岩手の選手に『(来年は)おもてなしします。一緒に頑張りましょう』と声を掛けてもらってうれしかったし、すごく行きたい気持ちになった」と岩手大会を心待ちにする。

障害者アートの拠点に アトリエSANC開成にオープン 佐賀新聞 2015年10月27日

障害者のアート活動を支援するプロジェクトの拠点となる、アトリエSANC(サンク)が、佐賀市開成にオープンした。障害者に創作活動の場を提供するほか、交流、情報発信の拠点としての活動を目指していく。

オープニング式典では、運営を担うNPO法人ライフサポートはるの福島龍三郎理事長が「アートに身近に触れることで心の豊かさや自己表現の喜びを障害者に知ってもらいた

い。同時に、彼らの芸術センスや活動を県民に広く伝えられれば」とあいさつした。

開所式でテープカットをする関係者たち＝佐賀市開成のアトリエSANC

式典に参加した松尾礼子さん（佐賀市）は金立特別支援学校高等部3年の三女・幸（さち）さんが創作活動に取り組んでいる。「決まった場所で落ち着いて制作できるようになれば、参加者も増えていくのでは」と期待を込めた。



アトリエは毎月第2土曜日に創作活動の場として提供するほか、展示会の開催や支援者の研修、アート関係者のネットワーク作りなどにも活用していく予定。

自信の絵、季節感じて 「きょうされん」カレンダーに県人

愛媛新聞 2015年10月27日

全国の障害者の作業所や事業所でつくる「きょうされん」（東京）制作の2016年版カレンダー「はたらく仲間のうた」に、愛媛県の新居浜、八幡浜両市の作業所に通う2人の作品が入賞し、採用されている。入賞作品計30点の原画展が新居浜市で開かれている。

カレンダーは1986年から毎年制作。今年は、全国からの応募1664点のうち、壁掛けに13点、卓上に17点が採用された。

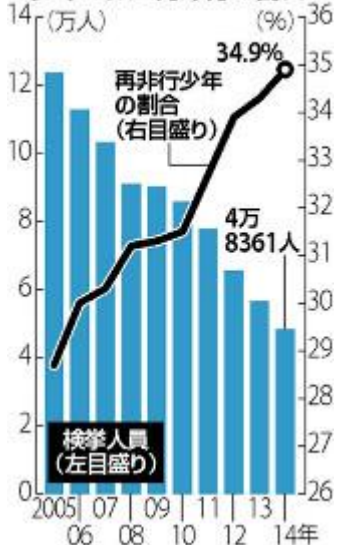


新居浜市船木のわかば共同作業所の真鍋正章さん（35）は大好きな太鼓台を描き2年ぶり4回目の入賞。太鼓台新調のお披露目会で写真を撮り、約4カ月かけて金色の幕や法被の文字などを精密な筆遣いで再現した力作だ。八幡浜市太平の浜っ子共同作業所の菊池之成さん（40）は2011年に続く2回目の入賞を果たした。「ともろこし」と題した今作は、実の一つ一つを細かく描いたトウモロコシを画面の随所に配置した。

入賞作の原画展は30日まで新居浜市前田町のイオンモール新居浜、11月18～25日に松前町筒井のエミフルMASAKIで開かれる。

太鼓台を緻密に描き上げ、カレンダーの図案に選ばれた真鍋さん

一般刑法犯で検挙された少年の数と再非行の割合



社会奉仕に再非行防止期待、4か月106人参加

読売新聞 2015年10月26日

「少年を褒めることが大事」と話す保護司の野田律子さん（右、東京都品川区で）



少年院を仮退院した少年など、保護観察対象者の一部に今年6月から義務付けられた「社会貢献活動」の参加者が、9月末現在で106人に達した。

社会奉仕の充実感を口にする少年も多く、再非行防止につながるとの期待が高まる一方、受け入れ先との認識のギャップが課題となっている。

◆「感謝が自信に」

「あ、水がなくなってる」。今年7月、東京都品川区にある

老人福祉施設のロビー。雑巾を手に黙々と床を拭く少年（16）が、植木鉢の土を目にしてつぶやいた。「よく気が付いたわね」。傍らで様子を見守っていた保護司の野田律子さん（72）が声をかけると、少年は照れくさそうに笑ったという。

少年は東京家裁で保護観察処分を受け、清掃活動を義務付けられた。活動前は「作業を手早く、正確に」などの目標を立てた。約2時間の作業を終えた少年は「疲れたけど、人の役に立ててよかった」と充実した表情を見せた。

介護・保育施設の建設費 12%増 14年度、整備の阻害要因に

日本経済新聞 2015年10月27日

介護・保育施設の建設費が上がっている。福祉医療機構の調べでは、2014年度時点で1平方メートルあたりの建設費は特別養護老人ホームが25.9万円、保育所は29.8万円と、それぞれ前年度比で12%増えた。ともに比較可能な08年度以降で最高になった。

介護報酬改定の影響で特養の7割が減収 WAM調査

福祉新聞 2015年10月27日 福祉新聞編集部

福祉医療機構（WAM）が14日に発表した「介護報酬改定等の影響に関するアンケート調査」で、2015年度の介護報酬改定の影響などで特別養護老人ホームの7割が14年度と比べて4月以降のサービス活動収益が減少したことが分かった。

調査は8月、3057施設を対象に実施し、1012施設が回答した（有効回答率33%）。内訳は従来型が6割で、個室ユニットが4割。定員は50～79人以下が4割と最多で、平均要介護度は3・7～4・2が7割を占めた。

前年度と比較した4月以降のサービス活動収益について聞いたところ、「減少」が69%、「横ばい」が22%、「増加」が9%だった。15年度の報酬改定については、「影響している」が95%に上った。3カ月後の見通しについて聞いても、「減少」が57%を占め、先行きを懸念する施設が少なくなかった。

また、介護職員処遇改善加算は99%が届け出をしており、そのうち加算区分の「I」を取得している割合が89%に上った。ただ、介護職員以外で処遇を改善した職員の割合について聞くと、看護職員（夜勤なし）26%、介護・看護以外の職員（常勤）27%にとどまった。

基本報酬のマイナス分を介護職員処遇改善加算でどの程度まかなえるかについては、「全く補えない」（33%）と「あまり補えない」（32%）で6割を超えている。

このほか、今年度から削減した費用について複数回答で聞いたところ、水道光熱費（29%）が最多。委託費（19%）、人件費（18%）、給食費（8%）と続いた。

また、今回の改定に伴い37%が施設の建て替えや設備投資を見送っていた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行